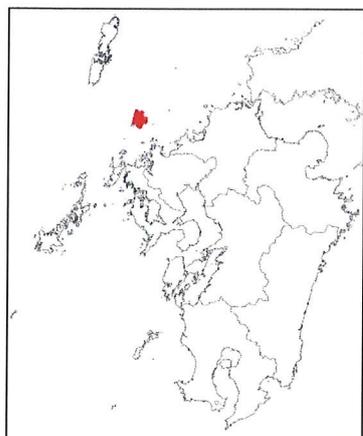


魚のさばき方動画を用いた水産教室について

壱岐地区漁業士会
下 條 浩 人

1. 地域の概要



私の住む壱岐島は九州北部の玄界灘に位置し、南北約 17 k m、東西約 15 k m、面積約 139 k m² の比較的平坦な島である。海岸線は複雑で、特に西岸一帯では出入りの激しい海岸地形がみられる。

本島周辺海域では、対馬暖流分岐流と九州沿岸流が交錯し、七里ヶ曾根、平曾根等の天然礁も多く、好漁場に恵まれている。このため、地元漁協はもとより、県内外の出漁船による操業が壱岐周辺海域で行われている。また、沿岸浅海域では起伏に富んだ岩礁地帯が張り出し、磯根資源が豊富な漁場を作り出している。

2. 漁業の概要

壱岐に 5 つある漁業協同組合には正組合員が合わせて約 700 人所属しており、一本釣り漁業を中心に延縄、定置網、採介藻漁業等を操業している。令和 5 年度はイカ類、ブリ類を中心に約 23 億円の水揚となっている。

3. 研究グループの組織と運営

私が所属する壱岐地区漁業士会は、指導漁業士 11 名、青年漁業士 3 名の計 14 名で構成され、壱岐の漁業活性化を目的として、水産教室の開催、担い手対策、新規漁具漁法の導入や他地区の漁業者との情報交換、海岸清掃活動等に取り組んでいる。

4. 研究・実践活動取組課題選定の動機

壱岐では、小学生・中学生・高校生を対象に水産業への理解を深めるとともに魚食普及を図るため、漁協、市、県、漁業士会が協力して水産教室を開催しており、小学生にはスルメ加工、中学生には魚の三枚おろし、高校生には刺身盛り等を指導している。

これまで、壱岐地区漁業士会では校舎内で水産教室を開催し、壱岐の水産業の説明や魚のさばき方を指導してきた（写真 1）。



写真 1 水産教室の様子

ところが令和2年に新型コロナウイルス感染が拡大し、感染拡大防止のため様々な活動が自粛となる事態となり、壱岐地区漁業士会でも学校側と協議した結果、魚さばきの実演や試食の中止または水産教室自体の中止を余儀なくされた。そのため、魚を捌くのを楽しみにしている子供達にできることがないか漁業士会で話し合ったところ、魚をさばく様子を動画撮影し、学校に配布して子供達に見てもらおうとの意見が出て、取り組むこととなった。

5. 研究・実践活動状況及び成果

地元で多く漁獲されているヒラマサ、ブリを用い、漁師がさばく様子を撮影した。

まず、魚の部位や包丁の持ち方といった基本から初心者が理解できるように丁寧に撮影した。

ウロコ取りから始まり、三枚おろし、サク取り、刺身の盛り合わせに至る一連の工程を地元の動画作成業者に協力を得て撮影し、見た際に分かりやすいようにテロップやナレーションを入れた(写真2)。

水産教室では、動画を用いてさばき方を説明した他、水産教室が中止になった学校には動画を記録したDVDを配布し、生徒の学習に活用してもらった。また、動画を見た生徒が水産教室後も動画を視聴できるように、YouTubeにアップロードした。



写真2 動画の様子



写真3 YouTubeのサムネイル画像



<https://youtu.be/wk9bsgQoh80>

写真4 YouTubeのQRコード及びURL

6. 波及効果

令和3年に長崎県内の壱岐・対馬・五島・県北の漁業士会が一同に会する離島地区漁業士会議において、魚のさばき方動画を用いた水産教室について事例発表した他、令和4年には九州ブロック漁業士研修会、令和5年には大分県漁業士会総会でも講演を行っ

た。

また、地元新聞に取組みが掲載され、漁業士会活動を広く知っていただく機会となった。

近年は多くの魚さばき方動画がネット上にあり、それらをうまく活用することで、「自分も魚をさばいてみよう！」という気持ちにさせることや、水産教室後に自分で魚を捌く際に動画を参考にすることもでき、水産教室以外での効果も期待される。

7. 今後の課題や計画と問題点

現在は家庭で魚をさばくことが少なくなっており、壱岐でも水産教室までは魚をさばいたことがない児童が多数いる。水産教室で魚をさばいた経験があるのとならないのでは、大きな差があると思われるので、これまで以上に取組んでいきたい。

新型コロナウイルスの感染症法上の取扱いが5類感染症に引き下げられてからは、感染に注意しながら水産教室を開催し、魚さばきの実演と動画視聴を使い分けている。現在もウイルス感染自体はなくなっていないため、万一、感染が拡大した場合でも、魚さばき方動画を活用して水産教室を開催できると考えている。

また、動画は水産教室の教材としてだけでなく、イベントや漁業士会の情報発信のひとつとして活用し、漁業士会活動を活性化させたい。